

美術部会

澁谷寿美恵

人格形成と結びついた美術教育を

各地域での研究会では、

実技と授業実践交流が好評

美術部会は東京民研の部会活動だけではなく、全都の美術教育研究運動の強化を重視してきました。東京教研には、部員が積極的に実践を持ち込み、充実した研究会になるよう努力をしてきました。

毎月、全都の各地でサークル活動をしている部員の学校に集まり、様々な造形素材（わら細工に正月飾り、新しい粘土の扱い方、展覧会向けの教材など多彩）の実技と日々の授業実践の交流を進めてきました。実技は若い教職員に好評で、土日開催であるにも関わらず、会場校の地域を中心に多くの参加者に喜ばれました。子どもの実際に即した実践的な実技や授業交流が十分実施されていない中、

こうした活動の重要性はますます高まっていますといえます。

明らかになってきた

いくつかの研究成果と課題

小学校の図工専科も低学年の授業も受け持つことが通常になってくる中、子どもの作品を“出来栄え”だけの追求や、

“見栄え”がするようにと作的に子どもを技術的に引っ張り上げることの誤りが明らかになってきました。低学年の子どもの作品を担任とともに温かく読み取っていくことが重要なのでしよう。

中学年ころからリアルに表現しようとする意識が芽生えてきますが、この時期の子どもたちには何を題材にするかということが重要です。「何をこそ描くのか」という問題は、学年が上がるほど重

要になってくるということも、明らかになってきたように思います。

展覧会や様々な学校行事、学年の取り組みと関連させた造形活動は大切ですが、美術が他の全教育活動とともに何を育てようとするのかということの論議抜きでは、「造形活動の面白さのみに傾く造形遊び」の問題点を乗り越えていくことはできないでしょう。その点では、ここ数年の全国教研への代表レポートは、平和や人権と結びついた美術教育を目指すという部会の研究成果が結実したものだといえるでしょう。

思春期・中学校段階の美術教育の問題

こうした部会の研究活動を深めていくためには、思春期の美術教育と小学校の図工教育の関連を明らかにしていく必要があります。3月の部会では、小中学校の実践を子どもの人格の発達との関連でとらえるために、他の教科部会の方々を含めた論議をしてきました。このような研究会を次年度も実施し、人格形成における美術教育の役割を明らかにしていきたいと思えます。（北多摩東支部）